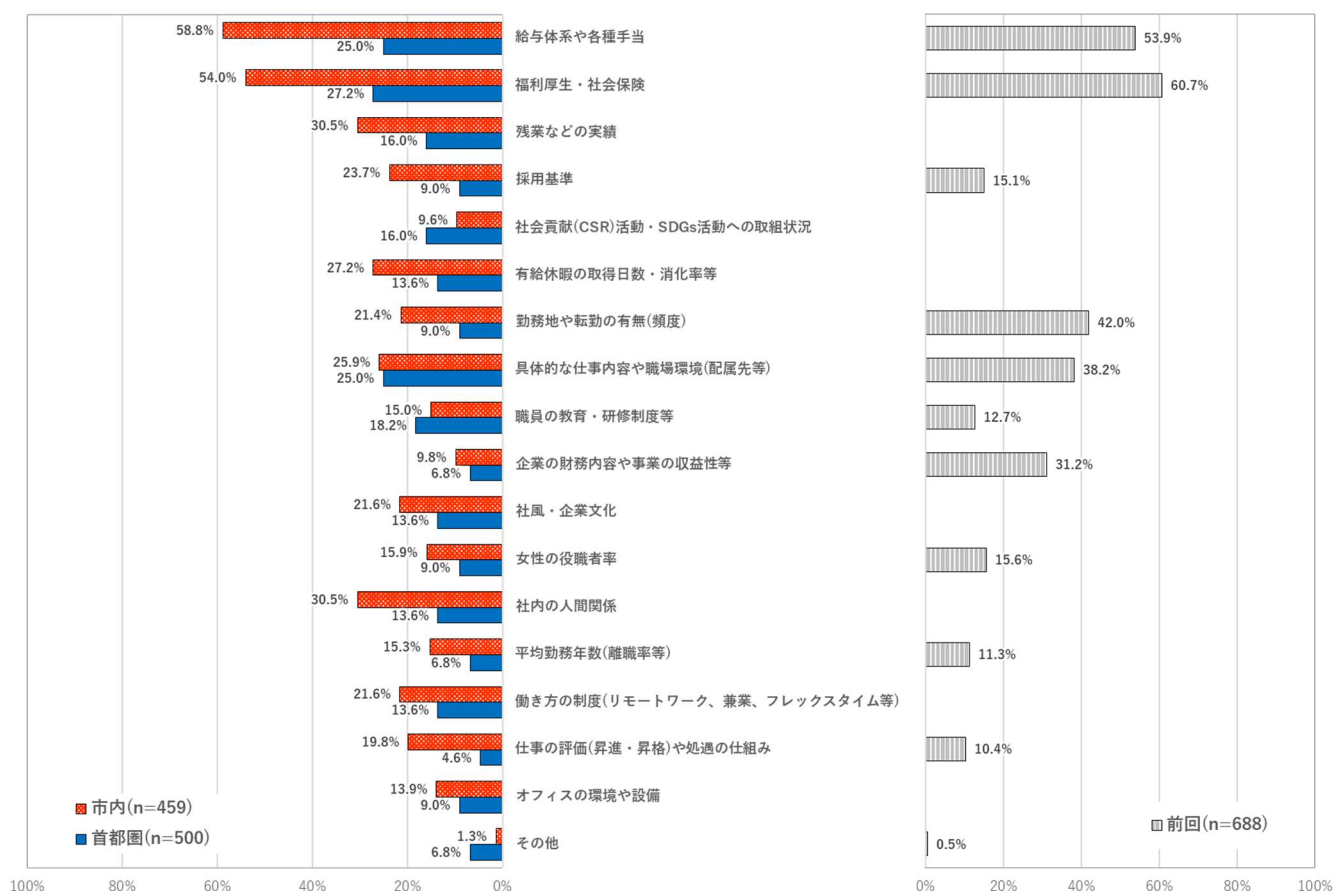


(5) 就職先（転職先）検討にあたり、もっと知りたかった情報

○就職先（転職先）検討にあたり、もっと知りたかった情報について、札幌市内大学生と首都圏若年層に回答を求めたところ、札幌市内大学生は「給与体系や各種手当」(58.8%)が1位、首都圏若年層は「福利厚生・社会保険」(27.2%)が1位であった。2位は札幌市内大学生が「福利厚生・社会保険」(54.0%)で、首都圏若年層は同率で「給与体系や各種手当」(25.0%)、「具体的な仕事内容や職場環境（配属先など）」(25.0%)となっている。3位は札幌市内大学生では同率で「残業などの実績」(30.5%)、「社内の人間関係」(30.5%)となっているが、首都圏若年層では「職場の教育・研修制度等」となっている。首都圏若年層では「社内の人間関係」は13.6%となっているため、首都圏若年層に比べて、札幌市内大学生が「社内の人間関係」について知りたいと考えていることが窺える。

就職先を検討するにあたり、もっと知りたかった(知りたい)情報<MA>

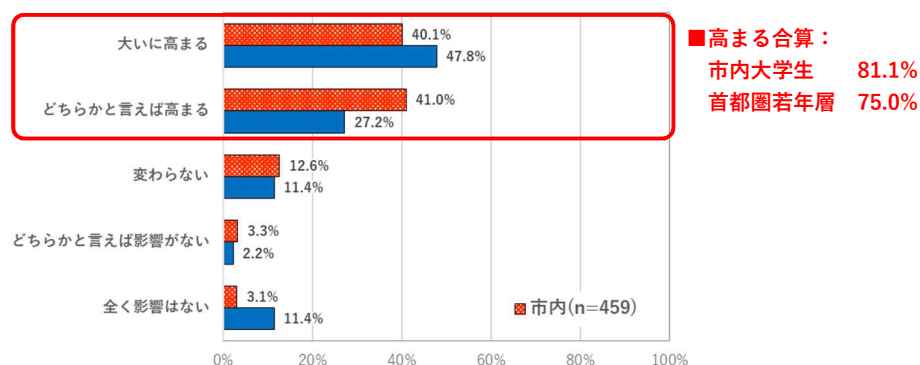


(6) オンラインによるセミナー・企業説明会・面接に対する意識

○オンラインによるセミナー・企業説明会・面接に対する意識について、札幌市内大学生と首都圏若年層に回答を求めたところ、「就職希望先がオンラインによるセミナー・企業説明会・面接等の対応を行うことで、応募する意欲が高まりますか」という設問に対して、札幌市内大学生は「どちらかと言えば高まる」(41.0%)、「大いに高まる」(40.1%) となり、“高まる”という意見の合計として 81.1%となった。

首都圏若年層は、「大いに高まる」(47.8%)、「どちらかと言えば高まる」(27.2%) となり、“高まる”という意見の合計は 75.0%という結果となり、全体的にオンラインのセミナー・企業説明会・面接は応募機会を増やす見込みがあると言える。

就職希望先が「オンラインによるセミナー・企業説明会・面接」等の対応を行うことで、応募する意欲が高まりますか<SA>



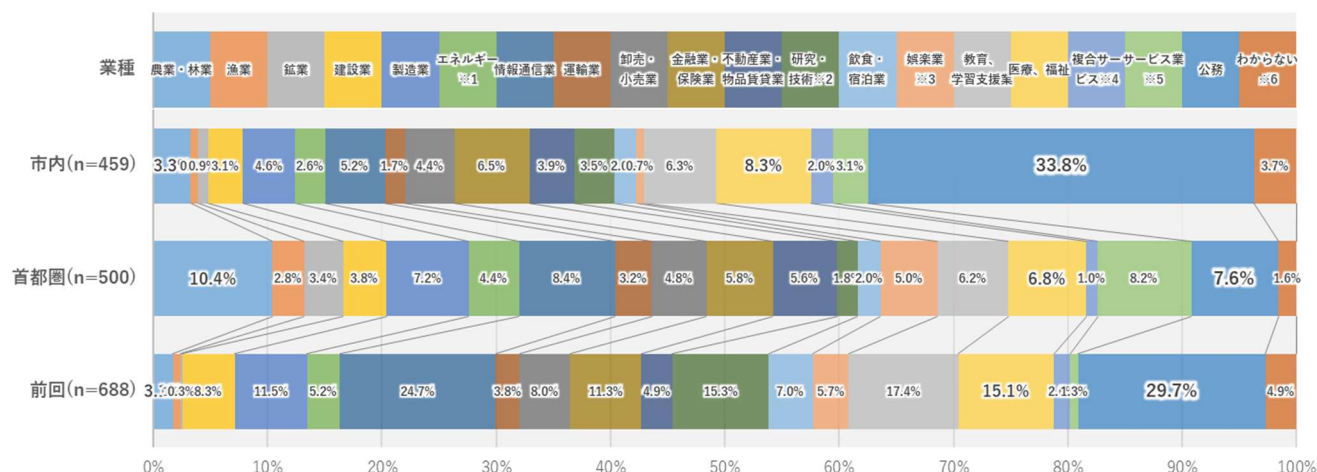
(7) 希望していた業種及び職種/実際に就職先(転職先)として決まった業種及び職種

○就職活動時に希望していたもしくは希望している業種について、札幌市内大学生では、最も多い回答は「公務」(39.4%)となった一方、首都圏若年層では「農業・林業」(10.4%)であった。

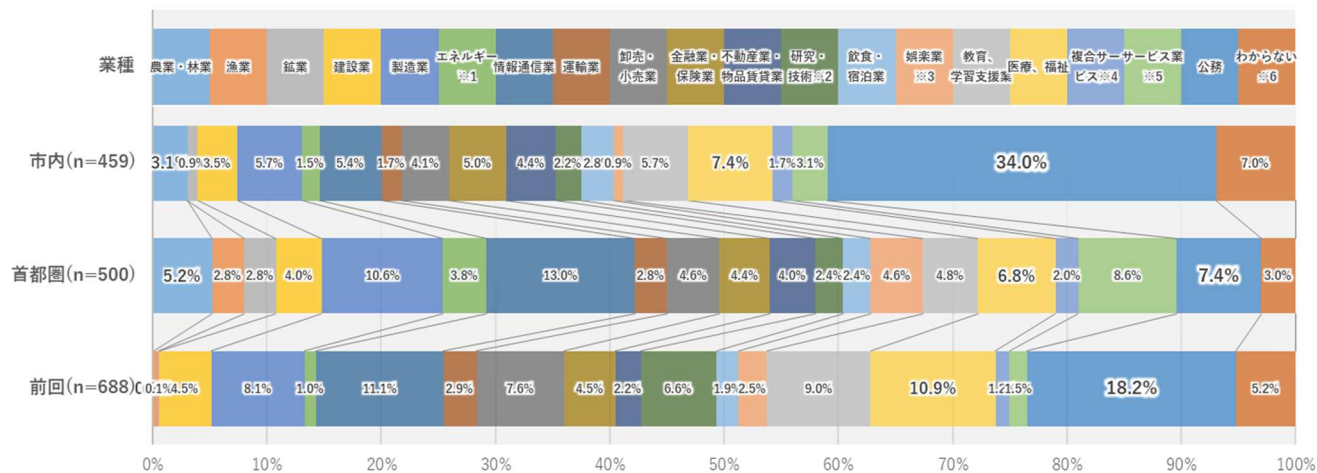
前回調査と市内大学生を比較すると、増加したのは「公務」(前回 29.7%→今回 33.8%)、減少したのは「情報通信業」(前回 24.7%→今回 5.2%)と「医療・福祉」(前回 15.1%→今回 8.3%)となる。

希望業種と実際に決まった業種の推移を比較すると、市内大学生では大きな変化は見受けられず、首都圏若年層で「製造業」「情報通信業」が増加し、「農業・林業」は減少している。

就職活動時に希望していたもしくは希望している業種<SA>



就職先として決まった業種、または現在、就職先となる可能性が高いと思う業種<SA>



※1 電気・ガス・熱供給・水道業

※2 学術研究、専門・技術サービス業

※3 生活関連サービス業を含む

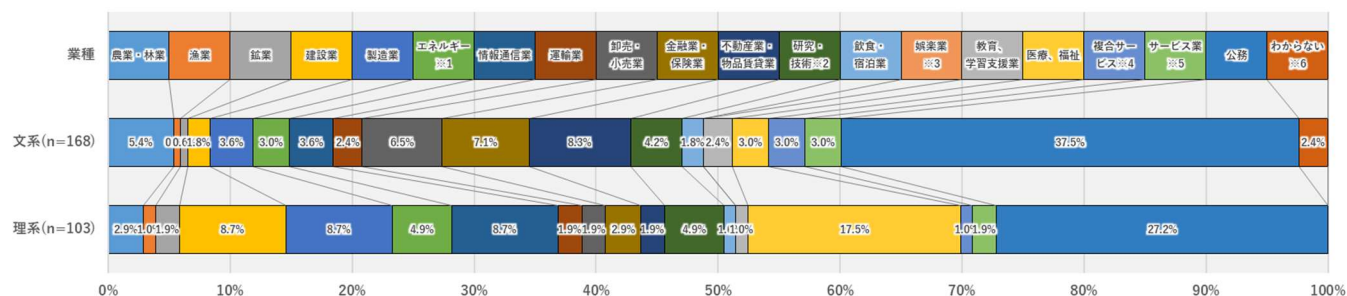
※4 郵便局、協同組合等

※5 他に分類されないもの

※6 始めてないを含む

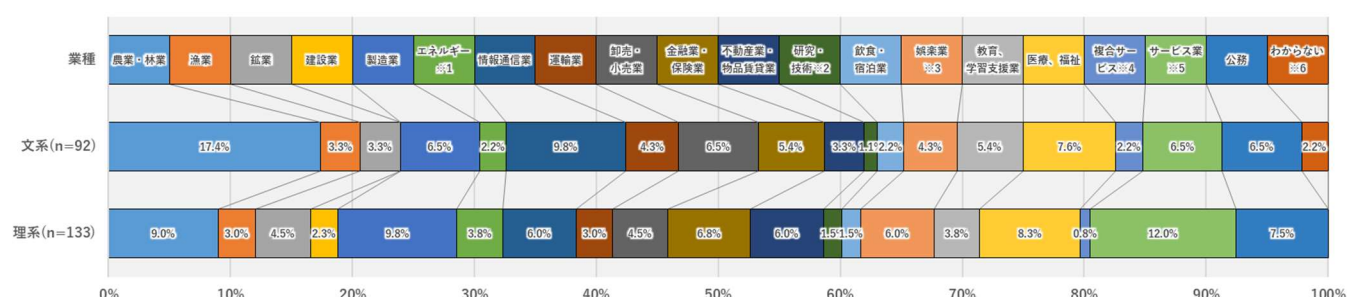
◆希望していた業種 札幌市内大学生アンケート調査＜学部別クロス/男性＞

理系男性では、文系男性に比べ「建設業」「医療・福祉」分野の割合が高い



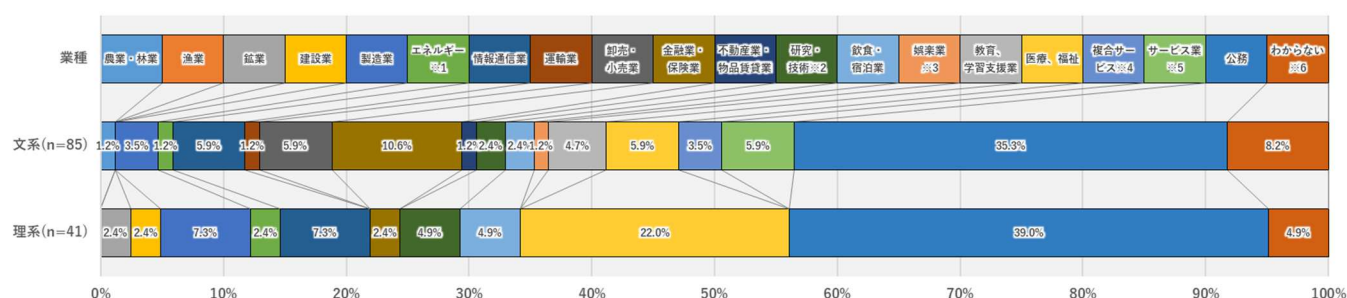
◆希望していた業種 首都圏大学生アンケート調査＜学部別クロス/男性＞

文系男性は理系男性に比べ「農業・林業」の割合が高く、理系男性は文系男性に比べ「サービス業」の割合が高い



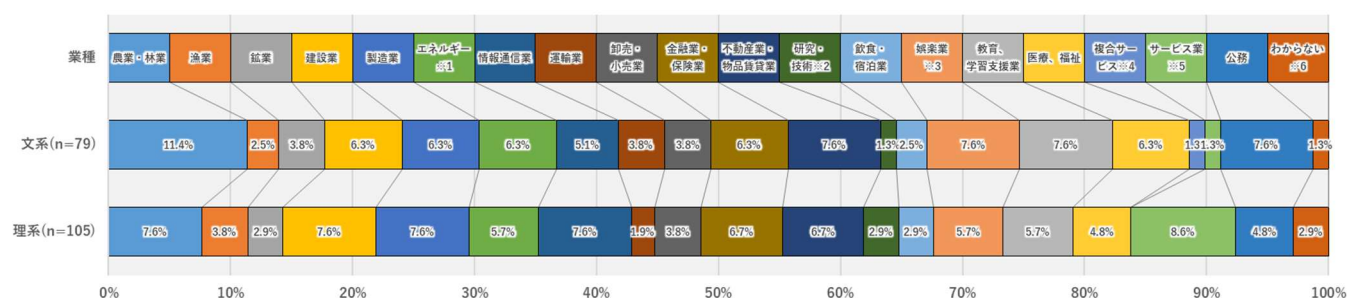
◆希望していた業種 札幌市内大学生アンケート調査＜学部別クロス/女性＞

文系女性に比べ、理系女性は「医療・福祉」と「公務」の割合が高い。文系女性は理系女性に比べ「金融業・保険業」の割合が高い。



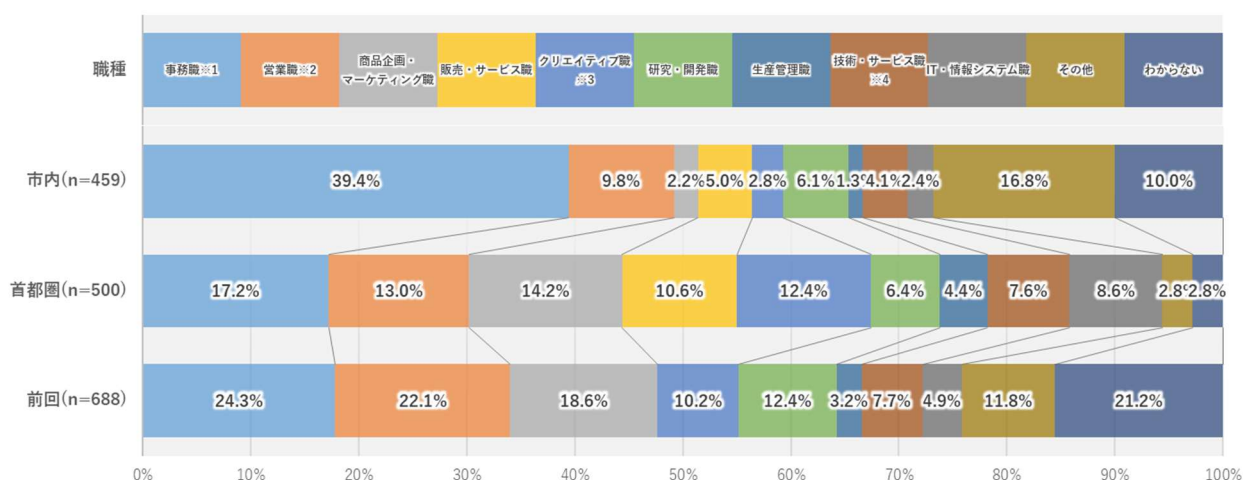
◆希望していた業種 首都圏大学生アンケート調査＜学部別クロス/女性＞

文系女性は理系女性に比べ「農業・林業」と「サービス業」の割合が高い

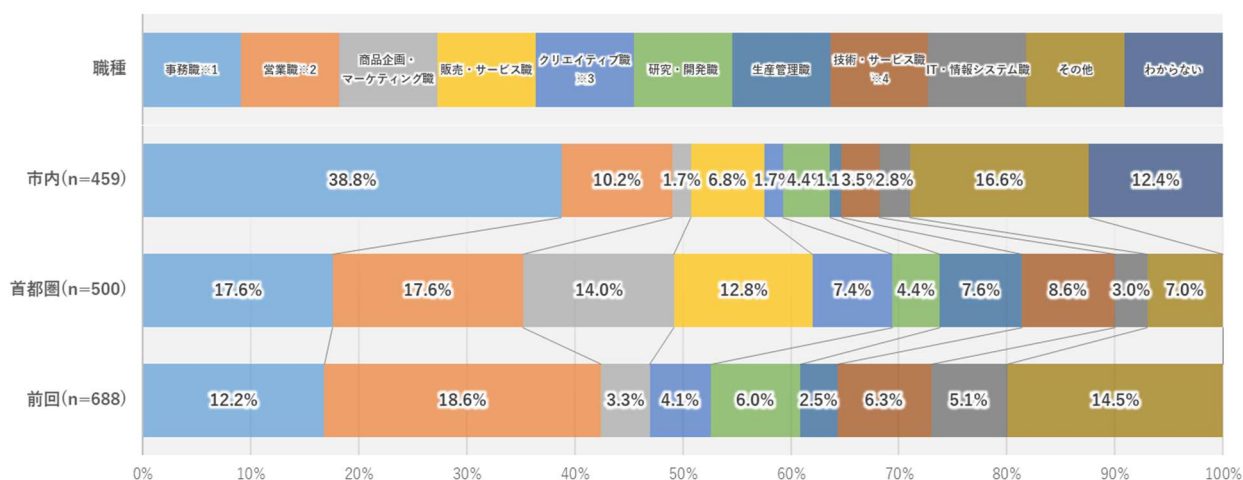


○就職活動時に希望していたもしくは希望している職種について札幌市内大学生に、回答を求めたところ、「事務職（総務・経理・人事）」（39.4%）が1位であった。一方、就職（もしくは転職）活動時に希望していた職種について、首都圏若年層でも「事務職（総務・経理・人事）」（17.2%）が1位であったが、「商品企画・マーケティング職」（14.2%）が2位となっている。札幌市内大学生では、「商品企画・マーケティング職」の希望割合は2.2%と低く、首都圏若年層との違いが大きい。就職活動開始直後に就職先として決まった職種、または現在、就職先となる可能性が高いと思う職種について、札幌市内大学生は「事務職（総務・経理・人事）」（38.8%）が1位だった。首都圏若年層では、就職（もしくは転職）先として決まった職種として、「事務職（総務・経理・人事）」（17.6%）、「営業職（営業・営業企画）」（17.6%）が同率1位であった。

就職活動時に希望していたもしくは希望している職種＜SA＞



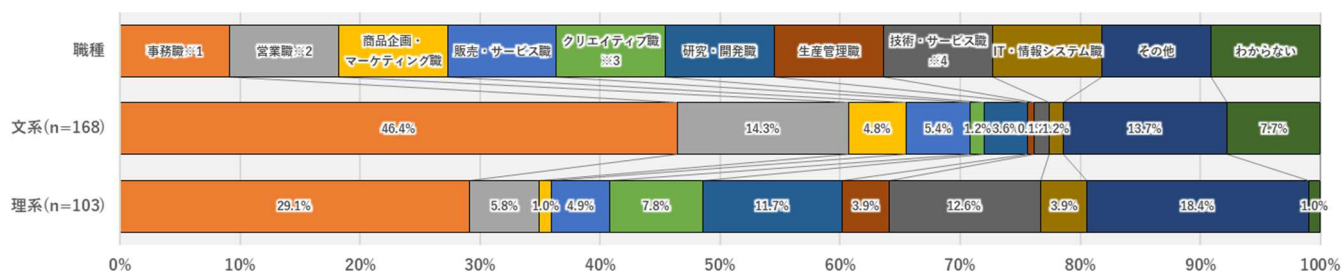
就職先として決まった職種、または現在、就職先となる可能性が高いと思う職種＜SA＞



- ※1 総務・経理・人事
- ※2 営業・営業企画
- ※3 設計・デザイン等
- ※4 建築・土木等

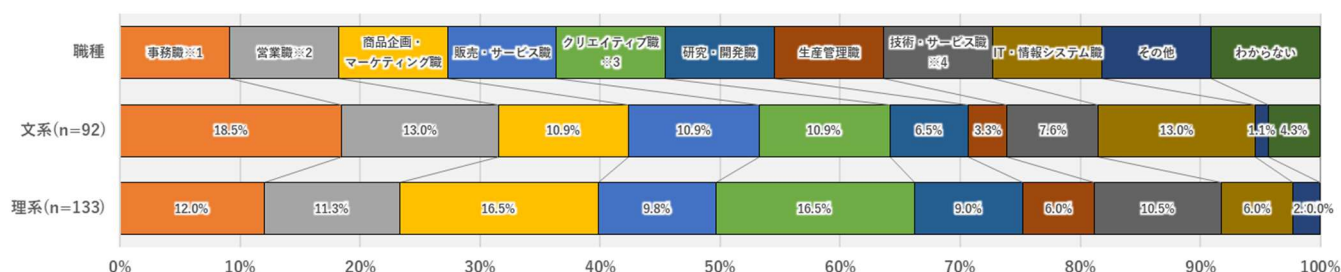
◆希望していた職種 札幌市内大学生アンケート調査＜学部別クロス/男性＞

文系男性は理系男性に比べ「事務職」「営業職」の割合が高く、理系男性は文系男性に比べ「クリエイティブ職」「研究・開発職」「技術・サービス職」の割合が高い



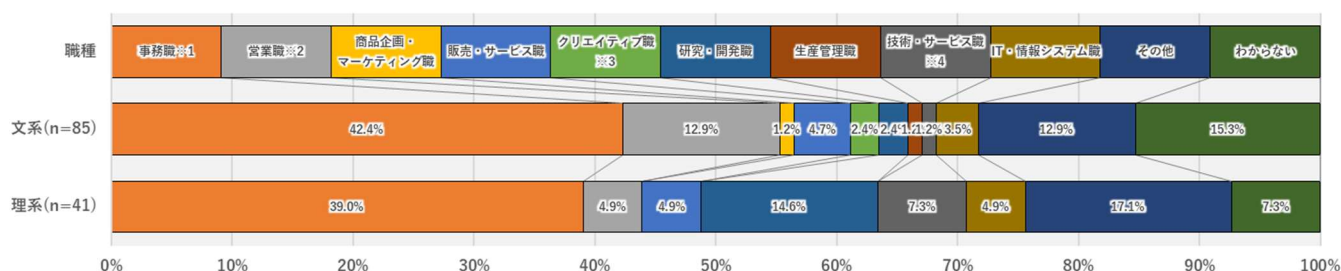
◆希望していた職種 首都圏大学生アンケート調査＜学部別クロス/男性＞

文系男性は理系男性に比べ「事務職」「IT・情報システム職」の割合が高く、理系男性は文系男性に比べ「商品企画・マーケティング職」「クリエイティブ職」の割合が高い



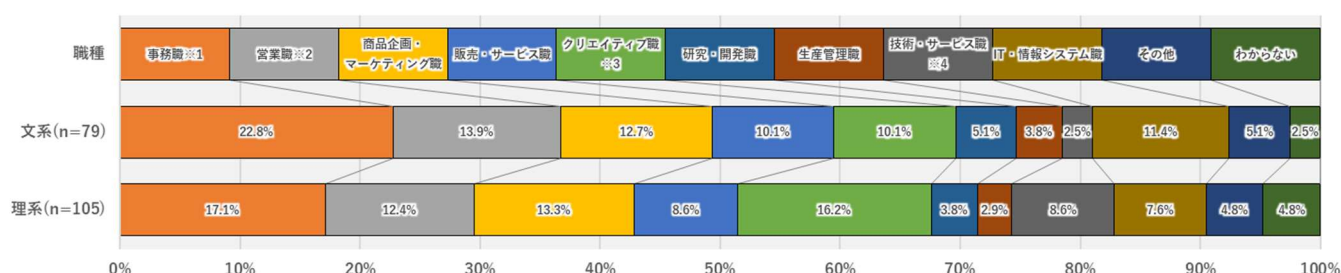
◆希望していた職種 札幌市内大学生アンケート調査＜学部別クロス/女性＞

男性に比べて、文系・理系いずれも「事務職」の割合が高く、文系女性は理系女性に比べ「営業職」の割合が高い。理系女性は文系女性に比べ「研究・開発職」の割合が高い



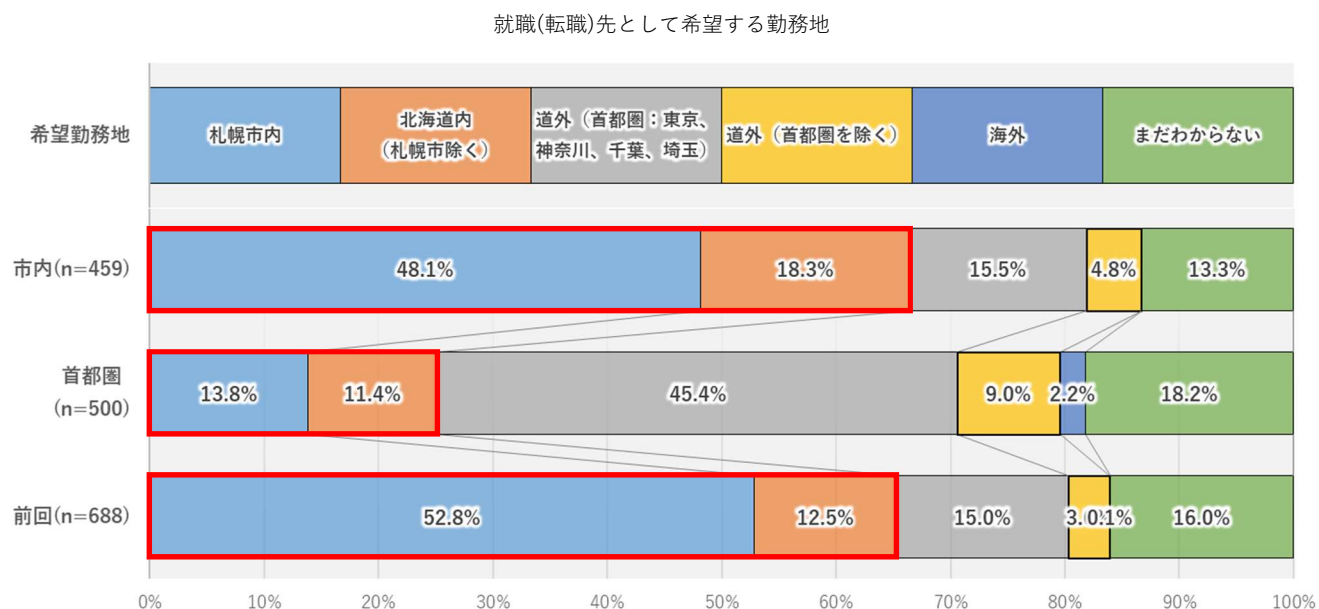
◆希望していた職種 首都圏大学生アンケート調査＜学部別クロス/女性＞

文系女性は理系女性と比べ「事務職」「商品企画・マーケティング職」の割合が高く、理系女性は文系女性に比べ「クリエイティブ職」の割合が高い



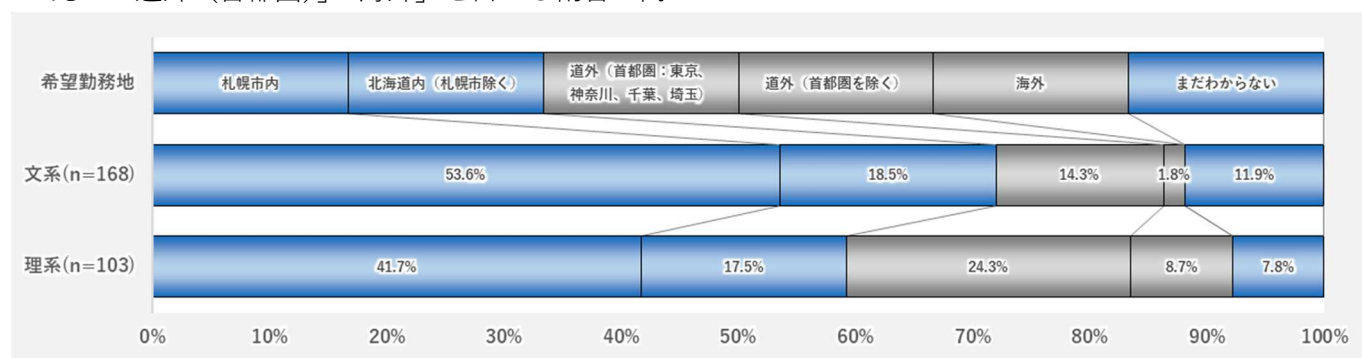
(8) 就職先(転職先)として希望する(した)勤務地

○市内大学生の就職先として希望する勤務地は「札幌市」が最も多く全体の48.1%を占める反面、首都圏若年層では13.8%という結果となった。首都圏若年層で最も多かった回答は「道外(首都圏)」となり、全体の45.4%という結果となった。下図の赤枠で囲った箇所は就職(転職)先として道内を希望する割合を示している。市内大学生では66.4%(前回調査65.3%)、首都圏若年層では25.2%という結果となった。



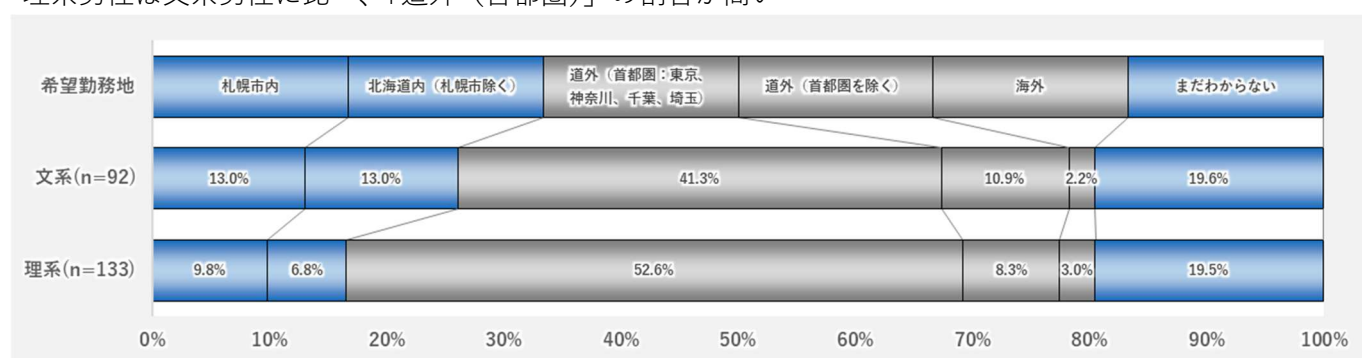
◆札幌市内大学生アンケート調査＜学部別クロス/男性＞

文系男性は理系男性に比べ「札幌市内」「道外（首都圏を除く）」と回答した割合が高く、理系男性は文系男性に比べ「道外（首都圏）」「海外」を占める割合が高い



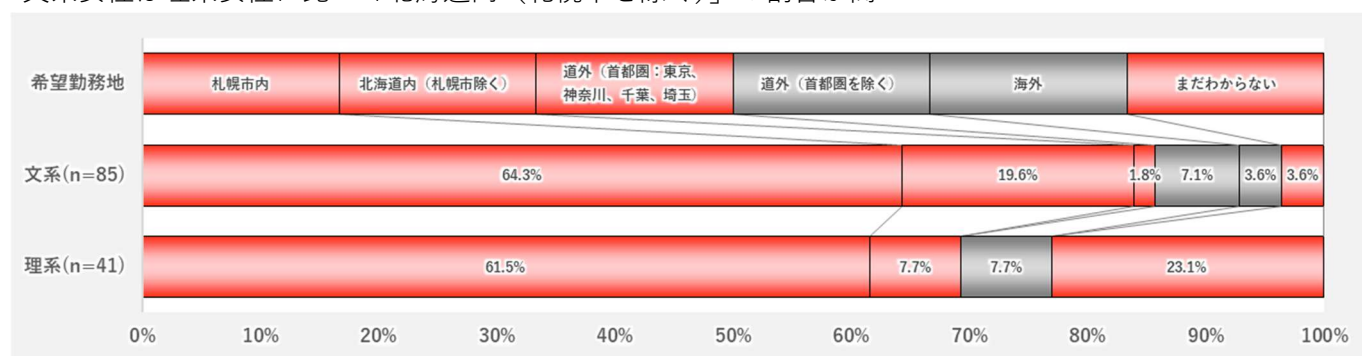
◆首都圏大学生アンケート調査＜学部別クロス/男性＞

理系男性は文系男性に比べ、「道外（首都圏）」の割合が高い



◆札幌市内大学生アンケート調査＜学部別クロス/女性＞

文系女性は理系女性に比べ「北海道内（札幌市を除く）」の割合が高い



◆首都圏大学生アンケート調査＜学部別クロス/女性＞

文系女性は理系女性に比べ「札幌市」の割合が高く、理系女性は文系女性に比べ「海外」の割合が高い

